

## もっと昔は 縄文集落の食を支えていた

### 縄文のビーナス



ビーナスラインから市民の森への道沿い、米沢埴原田工業団地の付近には、皆さん良くご存じの「縄文のビーナス」の愛称で有名な土偶が出土した棚畑遺跡があります。

現在は工場、水田となっている道沿いに、国宝土偶出土を記念する石碑が立っているだけで、当時の様子はいかがいしれませんが、1986年(昭和61年)の発掘調査で、縄文時代中期(5000~4000

年前)の約 1000 年もの期間にわたって次々に建て替えられた竪穴住居の跡が 146 軒も発見されました。常時 4~35 軒の住居からなる集落があり、特に縄文時代中期の中頃(4500 年前 前後)には、霧ヶ峰南麓の拠点的な集落だったとみられています。

そしてこの土偶は、1995年(平成7年)7月に国宝に指定され、現在、尖石縄文考古館に展示されています。



吉田山と棚畑遺跡

## 吉田山(市民の森)と縄文人の関わり

棚畑遺跡の背後に位置する吉田山は、どういう山だったのでしょうか。

おそらく、クリやドングリ、クルミやトチの実などのナッツ類、ヤマノイモなどの根菜類等の植物性食料資源と、イノシシやシカ、タヌキ、ウサギなどの動物性タンパク源も豊富な森で、縄文人達の食を支えた落葉広葉樹林のひとつだったのではないのでしょうか。

棚畑遺跡から出土した土器を見て下さい。この精密さ、豊かな感性、縄文人のゆとりを感じませんか。

採取と狩猟で食料を賄<sup>まかな</sup>っていた時代に、この余裕は何を意味するのでしょうか。

容易に食料を調達できる豊かな森が近くにあったのではないのでしょうか。



## 国宝土偶出土の記念碑



ビーナスライン沿いの市民の森入口の看板から諏訪南清掃センターに向かって進む途中にあります。